



ホスピス緩和ケア協会年次大会に参加して

ホスピス緩和ケア協会年次大会に久しぶりに参加してきました。600名を越える人に、圧倒されながら臨床哲学と対話、緩和ケアにおける対話のシンポジウムを拝聴してきました。

全体会の最初の問いが、なぜ哲学なのか？でした。それに対して、明快な返答はありませんでした。私であれば次のように答えたいと思いました。学問には事実学と本質学があります。科学的な学問の多くは事実学です。体温や貧血やコレステロールなど、数値として比較することができ、介入によって疾病の予防などの結果を測定することができます。しかし、死を前に現れる理不尽な思いを、いわゆる事実学だけで扱うことは困難です。一方本質学は、名前のように、ものごとの本質を問うような学問です。特に西洋哲学では正しい認識ができるのか？という認識にまつわる議論が続いてきました。私は現象学的なアプローチで、信念対立の構造を乗り越える援助が必要になることを学びました。死を前に怖いと思う人、死を前に怖くないと思う人、それぞれの理由、確信成立条件があります。その人が、認識する根拠となる条件こそ、スピリチュアルケアとして大切に”支え”です。ある人は、死を前にしても穏やかであると認識します。その条件はひとり一人異なりますが、その条件（支え）を意識して強めることができれば、援助を言葉にすることができるでしょう。

また、全体会で取り上げられた話題に、”支える”のではなく”寄り添う”のではないかという意見でした。支えるのは下からであり、技術が必要である。しかし、寄り添うことは横からであると。その一方で、寄り添うと暑苦しいのではとの意見があったり、少しまとまりない展開になっていました。

私が言いたかったのは、支えるのではなく、支えを強めること。支えることと、支えを強めることは、似ていて異なると考えています。たとえば、自宅で療養していて、訪問介護の人には毎日来てほしいけれど、看護師は週1回、医師にはなるべく来てほしくない并希望されれば、薬が不足しない範囲で、適切な関わりを選べる如果能够できれば、”支え”を強めることになります。その人が穏やかになれる条件=支えを言葉にすることができれば、このように、職種を越えて、それぞれの得意な役割を活かして、関わるができるでしょう。これは、支えるのではなく、支えを強めるとした方がよいと考えています。

もう1点、気になったこと。演者の一人が、印象的なご遺族の手紙を紹介されていました。まだ話ができると思っていたのに、目がさめないまま逝ってしまった。とても後悔しているという内容です。関わったスタッフからみて、家族はお迎えが近いことを理解し、眠くなる薬も必要であることを理解していたと思っていた…との報告でした。その話を伺いながら、一方で、ほかの演者が、”相手を理解できないという人がいるが、そんなことはない、一緒に話を聞いていけば、理解できる…”という内容でした。

発表そのものには、あえてコメントをしないつもりでしたが、どうしても気になったことは、この”理解できる”という言葉です。危惧す

るのは、人は、相手を理解したと思ったとき、相手の話を聴かなくなるからです。本当に私たちは、本人や家族の思い、苦しみを理解できるのでしょうか？あえて理解できないとしたうえで、ていねいに思いに耳を傾けていくことが、課題のあったご遺族の思いを大切にすることではないかと思いました。
小澤竹俊

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座

昨年以來、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクト（JSP）は、この4月に設立したエンドオブライフ・ケア協会の活動の柱であるエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座としてリニューアルいたしました。従来、反復に含めていた非言語的な対応や、返し方、あるいは問いかけなど、暗黙知と言われていた内容を、図表をふくめて全て新しいスライドにいたしました。そして7月25日26日に東京・浅草橋で第1回の養成基礎講座を開講します。半年前には、まだエンドオブライフ・ケア協会の企画もなかったにも関わらず、準備を進めることができました。この背景には、2025年まであと10年しかないという危機感、このテーマを学びたい人が、全国に待っているという期待感、そして、何よりもこの活動を支援してくれる仲間が存在があります。9月以降の日程は、エンドオブライフ・ケア協会のホームページを参照ください。

スタッフ募集

2015年9月より常勤医師が1名増え、常勤医7名、非常勤医6名体制となります。つきまして、看護師・訪問診療サポーターを若干名募集します。苦しむ人の力になりたいと思う人、緩和ケアに興味がある人、志のある人は、めぐみ在宅クリニックまでご連絡ください。電子カルテを使用するためパソコン操作を必要とします。在宅緩和については、当院にて研修を行います。ご応募お待ちしております。

診療実績

	2006-2014年	2015年 1月-3月	2015年 4月	2015年 5月	2015年 6月	2015年 計	総計
訪問回数	32,656	1,836	720	712	753	4,021	36,677
自宅永眠	1,286	52	21	22	17	112	1,398
施設永眠	129	5	4	4	1	14	143
在宅(自宅+施設)	1,415	57	25	26	18	126	1,541
病院永眠	330	15	6	4	5	30	360